

Web/CMSサーバホスティング運用サービス

2022年10月版

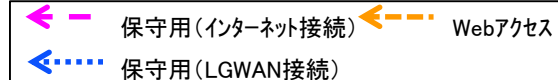
目次

1. Web/CMSサーバ接続形態について
2. Web/CMS基本要件について
(パターン①) 京都SCのDMZに、Web/CMSサーバを移行
3. Web/CMS基本要件について
(パターン②) 各団体様の自庁内にWeb/CMSサーバを残し、京都SCのDMZと接続
4. Web/CMS基本要件について
(パターン③) 京都SC以外の環境(クラウドサービス等)を利用

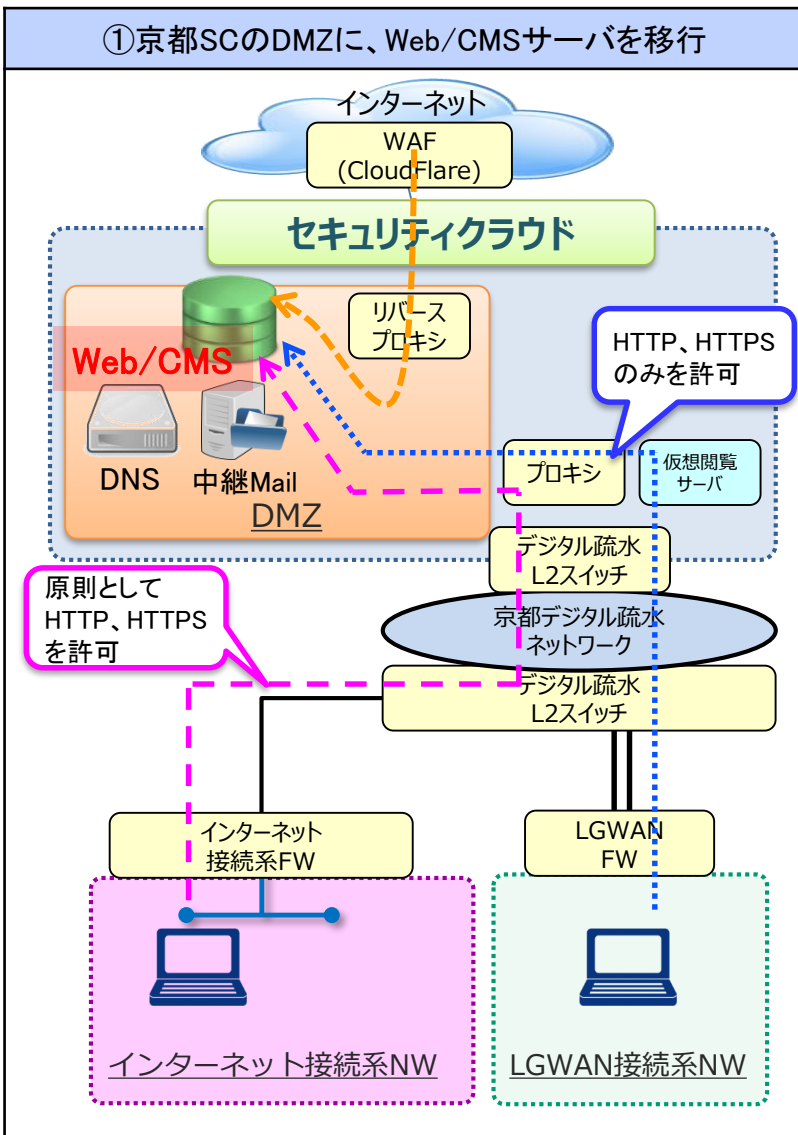
1. Web/CMSサーバ接続形態について

1. Web/CMSの接続形態について

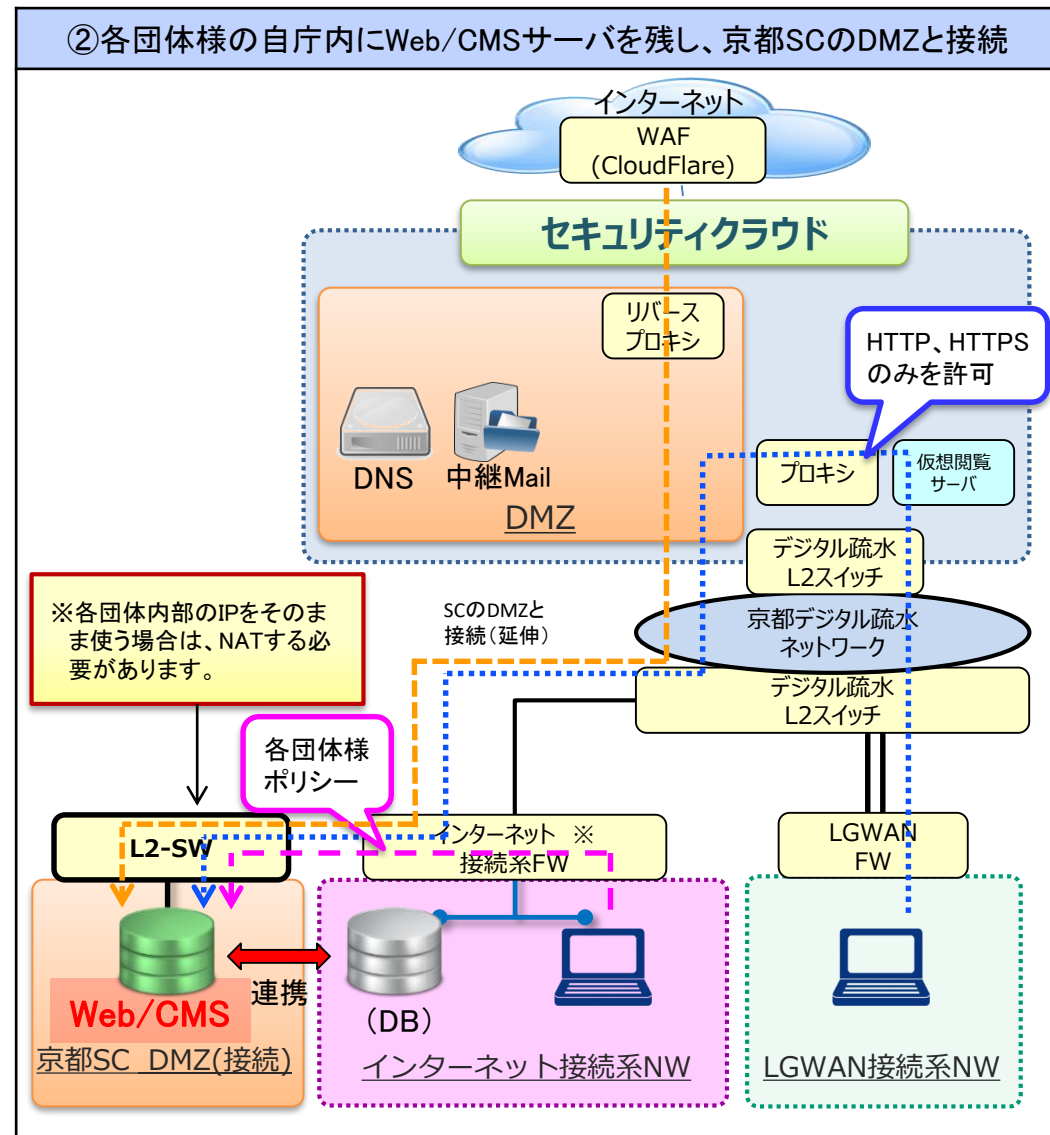
1-1. Web/CMSサーバの接続形態は、次に示す3つの形態になります。



① 京都SCのDMZに、Web/CMSサーバを移行

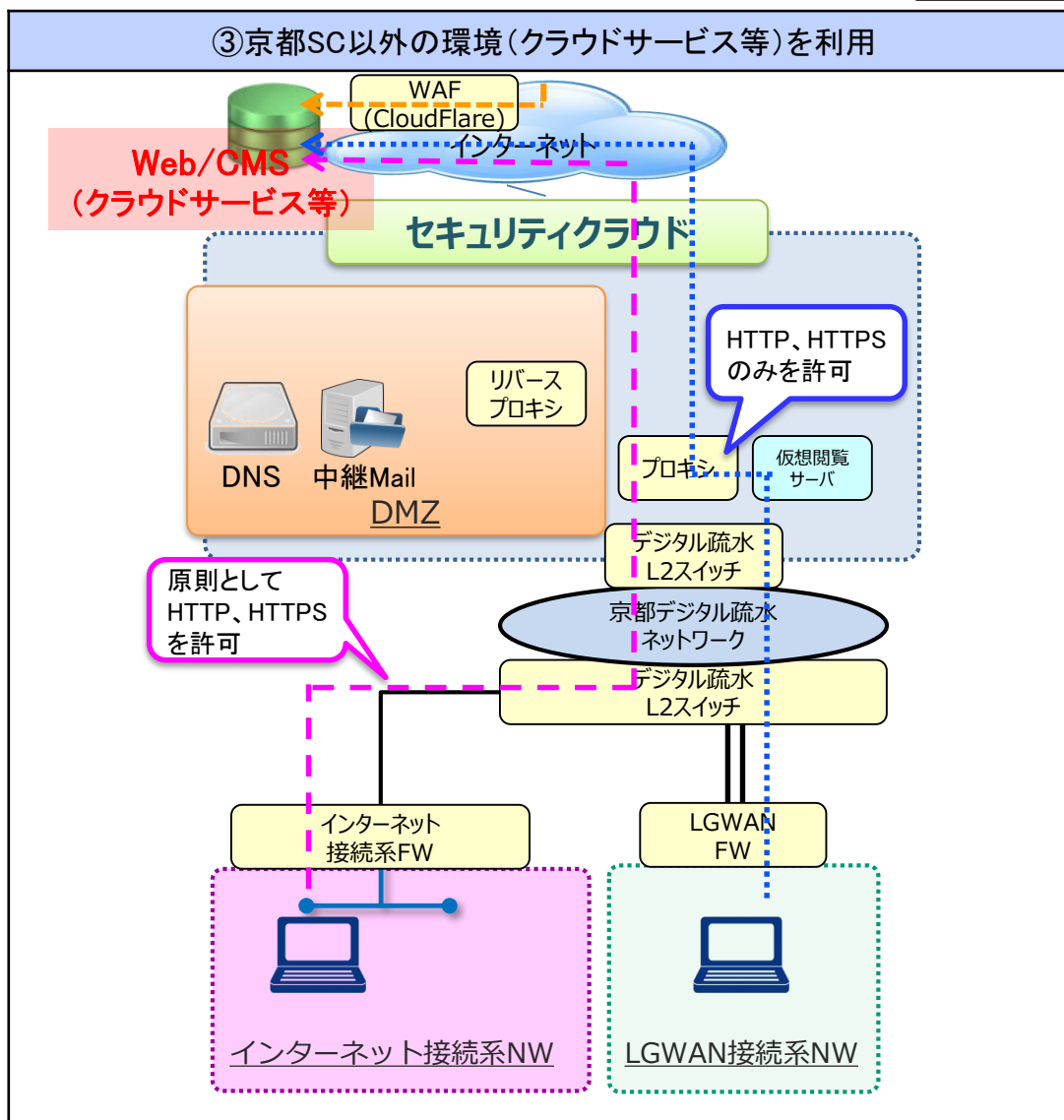
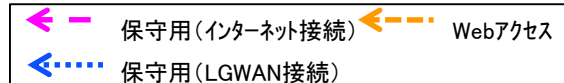


② 各団体様の自庁内にWeb/CMSサーバを残し、京都SCのDMZと接続



1. Web/CMSの接続形態について

1-1. Web/CMSサーバの接続形態は、次に示す3つの形態になります。



2. Web/CMS基本要件について

(パターン①) 京都SCのDMZに、Web/CMSサーバを移行

2-1. パターン①の基本要件

(1). Web/CMS要件【標準構成／プロダクト持込】

【標準構成】(京都SCでプロダクトを準備する構成です)

京都SCで提供する標準構成の環境は、以下の通りです。(プログラム名の後ろの括弧内の数字は本資料作成時のバージョンです)

[OS]: Redhat Enterprise Linux Server 8 (8.4) ※以下、「RHELv8」とします

[Webサーバ]: Apache (2.4.37-43)

[CMS]: WordPress (5.9.1)

用途	プロダクト	OS	vCPU数	メモリ(GB)	Diskサイズ(GB)
Web/CMS	Apache/WordPress	RHEL v8	4	8	100 ※1

【プロダクト持込】(プロダクトはご利用者様自身で持込いただく構成です。OSはRHELv8をご利用の場合、京都SCで準備いたします)

プロダクト持込構成の場合、以下の基本仮想サーバ構成のリソースを基準に、必要に応じてリソース追加のご相談に応じます。
原則最大3倍までとします。

【1台構成の場合】

用途	プロダクト	OS	vCPU数	メモリ(GB)	Diskサイズ(GB)
Web/CMS	持込	持込/RHEL v8	4	8	100 ※1

【2台構成の場合】

用途	プロダクト	OS	vCPU数	メモリ(GB)	Diskサイズ(GB)
CMS	持込	持込/RHEL v8	1	8	100 ※1
Web	持込	持込/RHEL v8	2	8	100 ※1

※1 100GB以上のDiskサイズを希望される場合は、事前に京都SCのポータルサイトよりご相談ください

(2). 使用可能なプログラム【標準構成／プロダクト持込※1】

※1: OSのみ準備を希望される場合

プログラム名	備考
【標準構成／プロダクト持込 共通】 <ul style="list-style-type: none">・Perl (5.26.3)・PHP (7.4.19-1)・MariaDB (10.5.9-1) 【標準構成のみ】 <ul style="list-style-type: none">・PHPmyAdmin (5.1.3)	<ul style="list-style-type: none">・プログラムの提供バージョンは導入時点のRHEL v8サポート内の最新版となります。 (プログラム名の後ろのカッコ内の数字は本資料作成時のバージョンです) 【標準構成】 <ul style="list-style-type: none">・プログラムの追加対応は致しかねます。・設定パラメータの変更はご利用者様からのご申告により対応いたします。 【プロダクト持込】 <ul style="list-style-type: none">・プログラムの追加、設定パラメータの変更はご利用者様ご自身で実施してください。

(3). WordPressプラグイン【標準構成】

プラグイン名	備考
<ul style="list-style-type: none">・Akismet・Hello Dolly・WP Multibyte Patch	<ul style="list-style-type: none">・プラグインの提供バージョンは導入時点での最新版となります。・プラグインの追加、設定パラメータの変更等は京都SCの標準構成サポート 範疇外となりますので、ユーザ様ご自身の責任にてご利用ください。

(4). 払い出しアカウント権限【標準構成／プロダクト持込】

【標準構成】

- ・ Apacheグループ権限のアカウント(/var/www/html/wordpress以下のみ、編集可)を付与いたします

【プロダクト持込】

- ・ サーバ管理者権限のアカウントを付与いたします

(5). 制限事項関連【標準構成／プロダクト持込】

- ・ ディスク容量を要するバックアップサーバ、データベースと連携する高度なアプリケーションサーバの利用はご遠慮いただきます。
- ・ サーバ負荷が大きいストリーミング配信サーバ等の利用は、ご遠慮いただきます。
- ・ 個人情報や機密情報を保存するサービスには、ご利用いただけません。
- ・ 標準構成でご提供している範囲を越えたご利用方法(root権限を利用する作業が伴う設定変更)、プログラム追加等については、京都SCのサポート範疇外となります。その際はプロダクト持込構成の扱いとさせていただきます、別途サーバ管理者権限アカウントを付与いたします。

(6). 付加機能要件【標準構成／プロダクト持込】

WAF	CDN	改ざん検知	HA	負荷分散	バックアップ	データベース	NTP	ウイルス対策
有	有	有※1	無※2	無	有	無	有	有※3 (【標準構成】の場合)

※1:トップページ等、主要ページの改ざん検知を行います。

※2:VMwareの機能であるVMware HAにより、HA機能を提供します。

※3:【標準構成】の場合、ウイルス対策ソフトを提供します。

【プロダクト持込】の場合、ウイルス対策ソフトは、各団体様にてご準備頂きます。

(7). バックアップ要件【標準構成／プロダクト持込】

機器	バックアップ方式	依存頻度	世代	バックアップ先ボリューム
サーバ機器 (Web/CMS)	Snapshot	下記を1セットとする [フルバックアップ]:毎日	28セット (28世代)	メインストレージ

※バックアップは、仮想サーバ単位のスナップショットです。コンテンツのバックアップではありません。

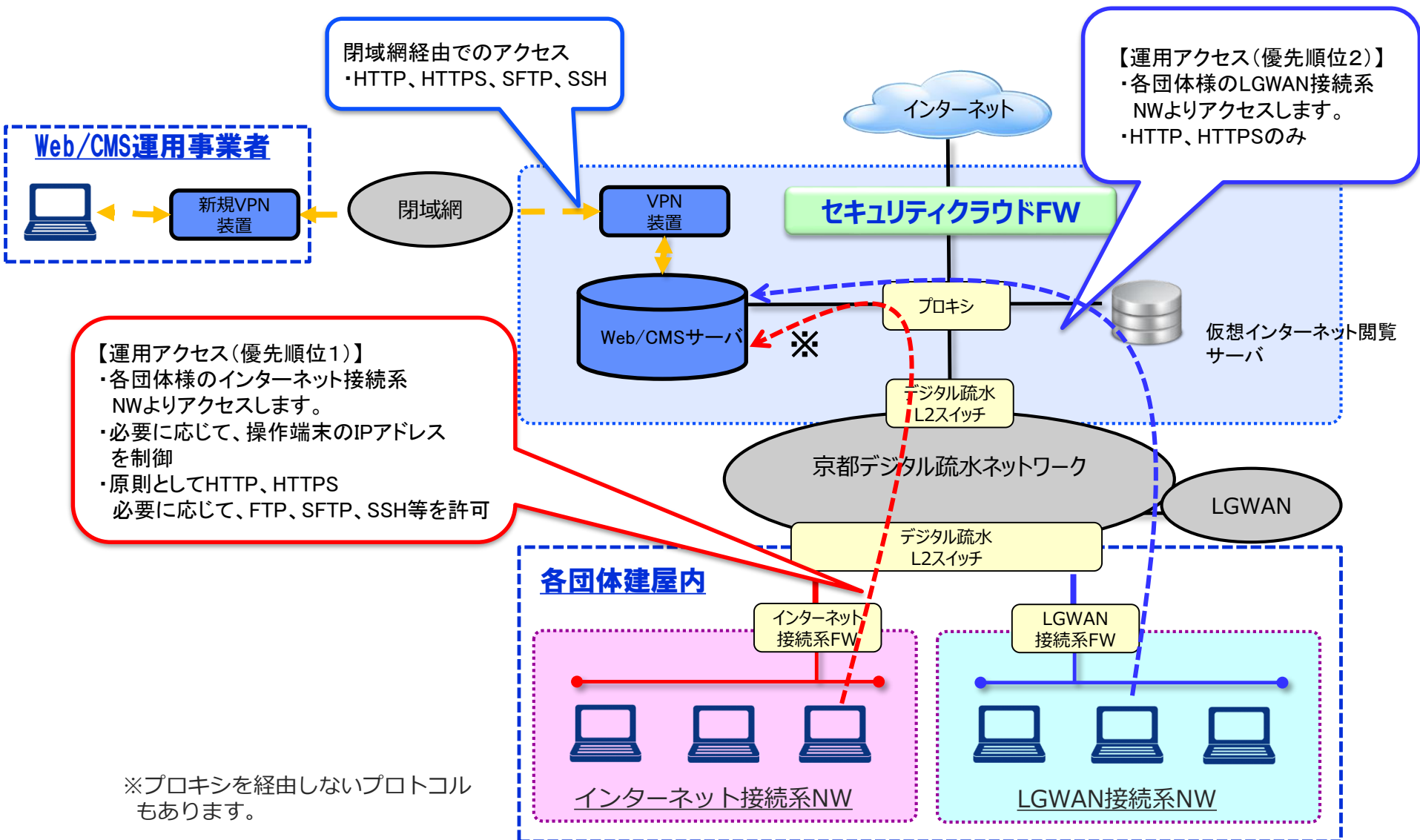
※バックアップデータによるリストアが発生する場合、リストアするデータは、復旧時に周知いたします。

(8). 通信許可するプロトコル 【標準構成／プロダクト持込】

- ・外部から内部の通信について、HTTP、HTTPS以外の通信は、許可しません。
- ・Web/CMSサーバがインターネット接続する際はプロキシ経由とします。
- ・Web/CMSサーバがインターネット向けにメール送信する際のSMTP通信に関しては、各団体様側のメールサーバを経由させてください。
- ・Web/CMS運用事業者からの閉域網によるVPN接続はHTTP、HTTPS、SFTP、SSHを許可します。

2. Web/CMS基本要件について(パターン①)

(9). Web更新と運用のアクセス【標準構成/プロダクト持込】



2. Web/CMS基本要件について(パターン①)

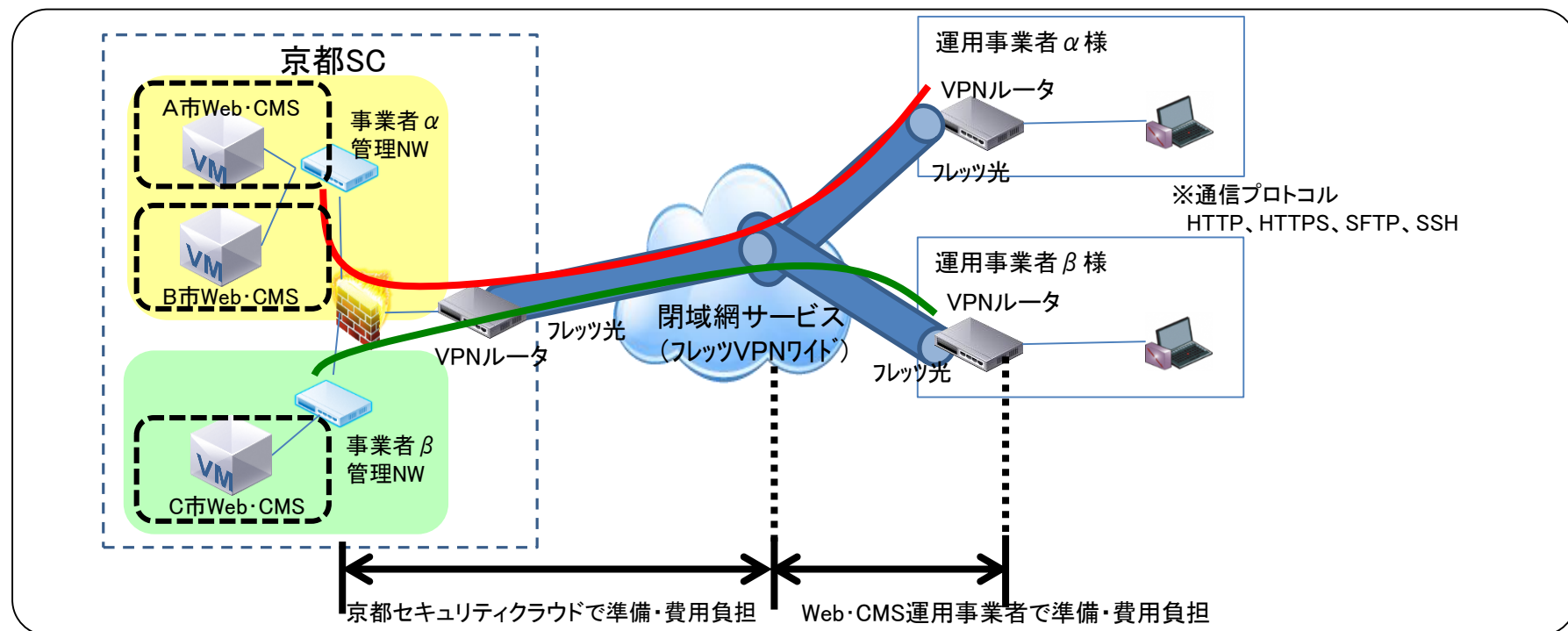
(10). 各団体Web/CMS運用事業者様のリモート接続環境準備設備【標準構成／プロダクト持込】

回線品目	フレッツ光(ファミリータイプのみ)
VPNサービス	フレッツVPNワイド
VPNルータ(推奨)	Fortigateシリーズ(推奨: Fortigate60F)

※VPNサービスは、VPN参加者毎のご契約になりますのでアクセス回線及びVPNサービスの工事費及び月額利用料等は、各団体Web/CMS運用事業者様(VPN参加者)のご負担になります。

※各団体Web/CMS運用事業者様にてアクセス回線の手配を完了された後に京都SC(VPN管理者)経由でフレッツVPNワイドへの参加申込み(VPN参加者)を実施して頂きます。

(11). 各団体Web/CMS運用事業者様のリモート接続構成【標準構成／プロダクト持込】



(12). NTT西日本京都三条ビル内でのサーバ作業について【標準構成／プロダクト持込】

(ア) コンソール接続端末の貸し出し

NTT西日本京都三条ビル内、プロジェクトルームでの作業となります。

作業にあたり作業用のパソコン環境を貸し出しいたします。

VMwareのコンソール(コントロールパネル)は、ユーザに開放いたしません。

(イ) NTT西日本京都三条ビルへの入館について

・入館時間は平日9:00～17:30を基本といたします。

・事前に京都SC総合窓口にて作業日程、来館者の情報、当日の作業内容、データ持ち込みの方法をお伝えください。

※当方で事前に作業環境の準備を行うため、当日の作業内容(データ持ち込みの方法など含む)はなるべく詳細にご記入ください。

ご不明点がございましたら総合窓口までお問合せください。

(ウ) データの持込について

・データの持込はUSB外部接続ドライブ、もしくはDVD-R等記憶媒体となります。

・標準構成のサーバOSはRHELv8となりますのでUSB外部接続ドライブのフォーマット形式にはご注意ください。

※万が一、作業環境で不測のトラブルが発生して作業が実施いただけない場合に備え、作業日程は十分余裕をもって計画いただきますようお願いいたします。

(13). DMZのNW構成【標準構成／プロダクト持込】

- ・ 外部セグメント(Web)と内部セグメント(CMS)を分けるNW構成とします。
- ・ 各団体様NWは、VLANにより、NWを分割された構成とします。
- ・ 各団体様に割り当てるグローバルIPアドレスは、公開Webサーバ毎に1個単位で払い出します。

(14). 障害対策【標準構成／プロダクト持込】

- ・ サーバ障害対策は、vSphereHA機能で冗長化し、物理サーバ障害時も別筐体へのライブマイグレーションにより 継続したサービス提供が可能な構成とします。

※障害発生時は、各種リソースのオーバーコミットを考慮することにより、縮退運転での対応を実施

(15). 監視【標準構成／プロダクト持込】

・監視は、サーバ毎にPingによる死活監視を実施します。

※その他、サービス監視等が必要な場合は、各団体様で独自に実施していただきます。

(16). 定期メンテナンス【標準構成／プロダクト持込】

【標準構成】

- ・標準構成提供範囲(OS: RHELv8、Web: Apache、CMS: WordPress)について、緊急性の高い脆弱性情報がメーカーからリリースされた際は京都SCからご案内を差し上げます。
- ・標準構成提供パターンでは、OS(RHELv8)、Web(Apache)については、団体様へ事前にご案内を差し上げたうえで京都SC側でパッチ適用を実施します(クリティカル項目のみ)
CMS(WordPress)についてはコンテンツへの影響を考慮する必要がありますので、各団体様でコンテンツ事業者様と調整の上、バージョンアップ等ご対応ください。

【プロダクト持込】

- ・各団体様持込みパターンは、ゲストOSも含めて、各団体様で、メンテナンスを実施していただきます
※ゲストOSが京都SCから提供したRHELの場合は、緊急性の高い脆弱性情報がメーカーからリリースされた際に京都SCからご案内を差し上げます。京都SC側でのメンテナンスを希望されている場合は、OSのセキュリティパッチを含めたメンテナンスは京都セキュリティクラウド側で実施いたしますが、セキュリティパッチの適用により、団体様のコンテンツに影響が出る可能性がございますので、メンテナンス計画をご連絡した際に団体様にてコンテンツ動作に支障が無いか事前にご確認ください

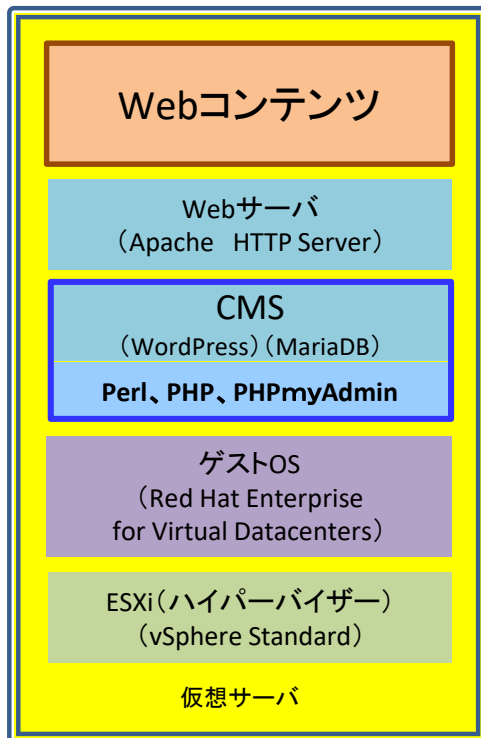
【共通】

- ・ハイパーバイザー(vSphere)のメンテナンスについて、マイナーバージョンアップ、機能アップのバージョンアップは実施しません。
- ・ハイパーバイザー(vSphere)のメンテナンス(パッチ適用等)において、サービス停止を伴うことがあります。

2. Web/CMS基本要件について(パターン①)

(17). Web/CMSホスティングサービス運用保守対象範囲【標準構成／プロダクト持込】

(ア). 仮想化基盤【標準構成】



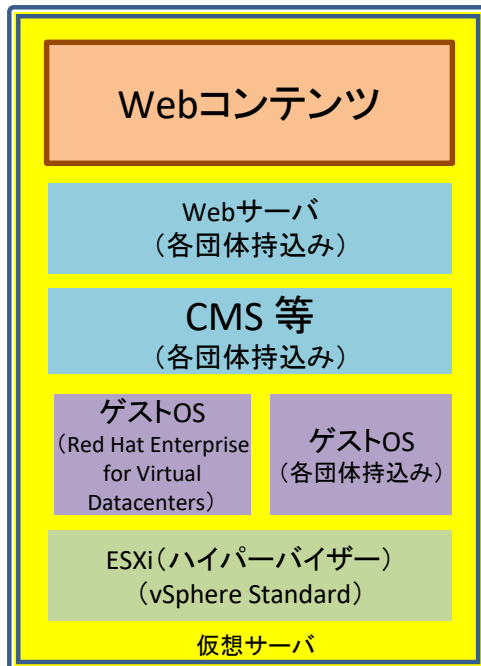
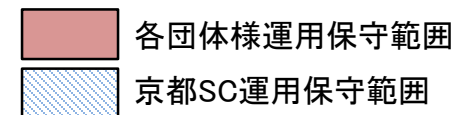
各団体様運用保守範囲
 京都SC運用保守範囲

		初期構築		保守 (監視)	保守 (故障対応)	運用 (パッチ適用)	運用 (VerUP)	運用 (構成管理)	運用 (Webコンテンツ 移行・更新)
		基本設計	詳細設計						
Webコンテンツ	ソフト			-	-	-	-		
Webサーバ (Apache)	ソフト			-					-
CMS (WordPress) (MariaDB)	ソフト			-		※			-
Perl, PHP, PHPmyAdmin	ソフト			-					-
ゲストOS (Red Hat Enterprise)	ソフト								-
ESXi (ハイパーバイザー) (vSphere Standard)	ソフト						-		-
仮想サーバ	ハード					-	-		-

※CMS (WordPress) については脆弱性情報がメーカーからリリースされた場合、京都SCからご案内をいたします。ただし、コンテンツへの影響を考慮する必要がありますので、各団体様でコンテンツ事業者様と調整の上、バージョンアップ等ご対応ください。その際、WordPressのバージョンアップにPHP等のバージョンアップが必要な場合、京都SC側で対応いたします。

2. Web/CMS基本要件について(パターン①)

(イ). 仮想化基盤【プロダクト持込】



		初期構築		保守 (監視)	保守 (故障対応)	運用 (パッチ適用)	運用 (VerUP)	運用 (構成管理)	運用 (Webコンテンツ 移行・更新)
		基本設計	詳細設計						
Webコンテンツ	ソフト			-	-	-	-		
Webサーバ (各団体持込み)	ソフト								-
CMS等 (各団体持込み)	ソフト								-
ゲストOS (各団体持込の場合)	ソフト								-
ゲストOS (Red Hat Enterprise)			※		※	※	※	※	
ESXi (vSphere Standard)	ソフト						-		-
仮想サーバ	ハード					-	-		-

※ゲストOSが京都SCから提供したRHELの場合は、緊急性の高い脆弱性情報がメーカーからリリースされた際に京都SCからご案内を差し上げます。京都SC側でのメンテナンスを希望されている場合は、OSのセキュリティパッチを含めたメンテナンスは京都セキュリティクラウド側で実施いたしますが、セキュリティパッチの適用により、団体様のコンテンツに影響が出る可能性がありますので、メンテナンス計画をご連絡した際に団体様にてコンテンツ動作に支障が無いか事前にご確認ください

3. Web/CMS基本要件について

(パターン②) 各団体様の自庁内にWeb/CMSサーバを残し、
京都SCのDMZを延伸

3-1. パターン②の基本要件

(1). 接続要件

<前提条件>

- ・各団体様側インターネット接続系NWにFWがあること。
- ・DMZ接続用VLANが用意されていること。

<接続要件>

- ・京都SCに接続するDMZは、京都SC側のグローバルIPアドレスにNATする必要があります。
- ・各団体様NWは、VLANにより、NWを分割された構成とします。
- ・各団体様に割り当てるグローバルIPアドレスは、公開Webサーバ毎に1個単位で払い出します。

(2). Web/CMSサーバの構成及びプログラム言語について

- ・Web/CMSサーバの構成及び使用するプログラム言語については、各団体様で運用されるポリシー等条件に準じます。
- ・Web/CMSサーバの運用(バックアップ、障害対策、監視、定期メンテナンス等)については、各団体様の責任において、実施していただきます。
- ・セキュリティ脆弱性情報に基づき、速やかなパッチ適用、バージョンアップ等の実施をお願いします。

(3). 制限事項関連

各団体様のインターネット接続系NWにDB等を設置し、延伸したDMZ内のWeb/CMSと連携することが可能です。

(4). 付加機能要件

WAFサービス、CDNサービス、Web改ざん検知サービスを利用することが可能です。

(5). 通信許可するプロトコル

- ・内部から外部の通信について、HTTP、HTTPS、SMTPを許可します。
- ・外部から内部の通信について、HTTP、HTTPS以外の通信は、許可しません。
- ・Web/CMSサーバがインターネット接続する際はプロキシ経由とします。
- ・Web/CMSサーバがインターネット向けにメール送信する際のSMTP通信に関しては、各団体様側のメールサーバを経由させてください。
- ・インターネット接続系NWと京都SC DMZ(延伸)間における、DB等の内部連携については、各団体様のポリシーに基づいて、実施をお願いします。

(6). 外部接続について

- ・Web/CMS運用事業者などが、外部から自庁内に接続される場合には、セキュアに接続できる環境およびセキュリティ対策等の実施をお願いします。

4. Web/CMS基本要件について

(パターン③) 京都SC以外の環境(クラウドサービス等)を利用

4-1. パターン③の基本要件

京都SC以外の環境(クラウドサービス等)を利用したWebサーバに対して、CDN・WAF運用保守サービスを利用する場合は、

(1). 接続要件

<前提条件>

- ・別のWAF、CDNサービスをお使いにならないこと。

<接続要件>

- ・Webサーバ側でアクセス制限をしている場合は、Cloudflare経由の接続ができるように設定変更が必要です。

(2). 制限事項関連

- ・ネイキッドドメインをご利用の場合は、団体様にて権威DNSの変更が必要です。
- ・Webサーバ側で特定のヘッダをチェックしてリダイレクトするなど、特殊な設定の場合は利用できない場合があります。
- ・WAFやCDNのキャッシュによって、動作に不具合が生じる場合は、それらの機能をOFFにせざるを得ない場合があります。

(3). 付加機能要件

Web改ざん検知サービスを利用することが出来ます。特定のグローバルアドレスから定期的にアクセスしますので、Webサーバ側でアクセス制限をしている場合は、アクセスできるように設定変更が必要です。

※Web改ざん検知サービスの利用に当たり、監視対象のURLの指定をお願いします。